

## デザイン研究

### 木材の飾装性について (2)

#### — 飾り台のあるサイドボードの設計 —

楠 畑 裕 也

#### 1. 目的

省略(前年に同じ)

#### 2. 概要

目的にそってサイドボードを対象に、製品の機能性とともに加飾のための装飾をデザインポイントにして設計した。すなわち箱枠、開き戸、飾り台に厚材を使用して、木材の材質的な豊かさをみせるよう試みた。

#### 2-1. 品名 飾り台のあるサイドボード

材 料 タブ材

#### 3. 考察と成果

無垢の厚材は重厚なイメージを生み、木材のプリミチブな材質効果をみせてくれた。これは製品の高級化のための一つの手がかりになり得るであろう。この作品は試作所のオリジナル製品として、ジャパンファニチャーショウに出品された。

## デザイン研究

### I 木製照明器具に関する研究

### II 収納器具の機能性に関する研究(継続)

田 原 健 次

#### I について

##### ○目的

特産材(イス・タブ・屋久杉等)の高度利用化研究の一環として照明器具(フロア-用電気スタンドのポール等木製部分)の実用化研究である。

##### ○概要

単体でメリット性が高く県内の一般企業レベルで実用化の目処ある木製品とし

て、照明器具を取り上げ高品質の室環境用具として、その有用性の適否を見極めようとしたものである。

##### ○成果

2カ年計画で具体化を進めたが、展示会等を通して企業の意見等を集約すると既製特産材品の次期製品として好評価を得、実用化についても企業サイドで考慮している段階であり、所期の成果を得た

と考えているものである。

## II について

### ○目的

室空間の効率的使用に適する収納器具のデザイン研究であるが、従来のユニット形式によらず単体品に機能性を十二分に附属させ実験的内容の濃い作品として改良試作を目的としたものである。

### ○概要

木製品に過分の機能性を求めることは本来材質上、構造上問題が多いが、敢えて実験作品により収納家具の構造上の新たな展

開性等を求めようとしたものである。

故に形については二義的なものとなり、変則的なものであるが企業の諸々のデザイン開発に、或いは経験量の少ないデザイナーの参考に資するため等、一つの思考法の示唆的作品として考慮したものである。

### ○成果

実験作品のため通常試作品と同列の評価は困難であるが、一種の非実用品のデザイン研究の意図するもの、即ち所期の目標が具体的に肉付けが成り発表が出来たこと等成果と考えている。

## 特産材利用による

### 小工芸品の試作研究

### ○目的

特産材による高級クラフト品の試作を目的とするもので、対象はキャンドルスタンド及び、コースターセット数種である。

### ○概要

本県の場合特産材との結びつきによるヒット性のある高級クラフト品は極めて少ない。屋久杉に多少の特徴ある製品はあるものの、クラフトとして特産材が高度に利用されている例は余りなく、ここに試作の意義を求めて研究するものである。

菊池元  
田原健次

### ○成果

特産材として用いた、タブ・クス・椎・屋久杉などは、極めて材の変化が激しく加工上難点が多いが乾燥条件等外因、内因の適切な処置により最少限に材の動き、クセ等を押え4種16点の試作を行ったものである。試作品は即実用化にまで結び付けることは、時間的に困難であるが、各タイプの仕上げは、次年度への研究継続と相まって試作の積み重ねによる成果を期したいと考える。すでに試作品は各地の展示会等を通して各種貴重な意見を聴取しているが、総体的に好評価を得ており、取り組みの方向にメリット性を充分確認出来るものである。